

授業科目名	コミュニケーションのための教育技術と教育機器	担当教員名	渡邊 裕 (実務経験のある教員)
		E-mail	hwatanabe@miu.ac.jp
授業形態	講義	オフィスアワー	授業前後の時間、またはメールにて対応する
コース	教職に関する科目	授業体制	単独
単位	2	配当年次	2年次後期
アクティブ・ラーニング	模擬授業及び模擬授業に向けての指導計画作成など	必修・選択	
授業概要	この授業は、文部科学省の教職課程コアカリキュラムにおける「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」に該当する科目である。そのため、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを全体目標とする。		
到達目標	<p>(1)教育の方法論</p> <p>1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。</p> <p>2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。</p> <p>3)学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。</p> <p>4)学習評価の基礎的な考え方を理解している。</p> <p>(2)教育の技術</p> <p>1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3)情報機器及び教材の活用</p> <p>1)子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。</p> <p>2)子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。</p>		
受講条件			
授業計画	No	内容	授業外学習
	1	<p>【子どもたちに育みたい資質・能力と授業力】</p> <p>これからの社会を生きていく子どもたちに求められる力は何のようなものであり、そのための教育の方法として何を学ぶ必要があるのかを考えることにより、教師に求められる力と授業実践に関わる知識がどのようなものであるのかについて理解する。(目標 (1) -1、(1) -2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の資料を参照し、<b>Society5.0</b>が目指す社会について整理する。</li> <li><a href="https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/">https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/</a></li> <li><a href="https://www.youtube.com/watch?v=NpK08gtYihw">https://www.youtube.com/watch?v=NpK08gtYihw</a></li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの学びや教師による指導方法にも変化が生じている現状について理解した上で、子どもたちの主体的で深い学びを支援するための事例を調べ自分の意見をまとめる。</li> </ul>
2	<p>【日本における教育制度の概観】</p> <p>日本の教育制度の根幹を為す法制度を確認し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領の改訂の変遷について理解する。その上で現行の保育・教育制度における目的や目標を確認し、検定教科書に関する制度について理解する。(目標 (1) -1、(1) -2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校学習指導要領解説の序章を読む。また、教育基本法、学校教育法、保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の最新版をダウンロードしておく。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校教育法施行規則」の「第四章 小学校」を読み、小学校で履修することが必要な各教科の名称や授業時数を書きだしてみる。</li> </ul>	

3	<p><b>【授業の設計と実践・評価】</b></p> <p>年間指導計画、単元の指導計画、1時間の授業の関係を理解した上で、授業の基本形について学ぶ。授業を主体的・対話的で深い学びにするために、教科書や教材の活用や学習規律の必要性について理解する。また学習評価の基礎的な考え方について、評価の方法やバイアス、絶対評価と相対評価、観点別評価について理解する。(目標(1)-1、(1)-2、(1)-4)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の学習指導要領解説をダウンロードし、教科の目標、各学年の目標等を確認する。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm</a></li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対評価と相対評価とはどんな評価なのかを具体例を挙げて整理し、それぞれの評価方法の問題点を箇条書きにまとめてみる。</li> </ul>
4	<p><b>【学習環境のデザインと情報技術】</b></p> <p>子どもたちの学びを支援するという観点から学習環境について理解を深める。学習環境の何をどのようにデザインするべきかについて具体例を挙げながら検討する。また社会全体のデジタル化が進む中で学習環境にも大きな変化が生じている現状について理解する。(目標(1)-1、(1)-2、(1)-3)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の教室にあるものをできるだけたくさん挙げ、それらに込められた意味や工夫を想像し、整理してまとめる。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校～高校までの学習環境のなかで、印象に残っているものを挙げ、その学習環境の機能とねらいをまとめる。</li> </ul>
5	<p><b>【教師に求められる指導技術】</b></p> <p>授業における教師としての立ち振る舞いについて理解する。発問、指示、説明、応答、黒板や白板、資料の提示など、具体的な場面における方法について考える。またICTを活用した指導場面における方法や技術にはどのようなものがあるかについても理解を深める。(目標(1)-3、(2)-1)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校で「授業をしている教師」をイメージし、どのような振る舞いが教師らしく見えるのかについて自分の意見を整理する。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での授業を想定し、閉じた質問と開いた質問の例を挙げる。それらの発問をする学年と効果を考えまとめる。</li> </ul>
6	<p><b>【子ども達の学びを引き出すための指導技術】</b></p> <p>学習者が中心となる学びを目指すために必要な方法と技術について考える。授業における机間巡視やノートの指導等を例に理解を深める。多様な特性をもつ子どもたちの学びを支援するためには、子どもたち同士が学び合う関係が重要であり、そのためのICTの役割についても理解を深める。(目標(1)-2、(1)-3、(2)-1)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校時代、「もっとも充実していた」という感じる時期のことを思い出し、それは何故だと思えるのかを整理してまとめる。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の頃に出された課題の中で、特に印象に残っている課題をいくらか上げ、それらの課題が子どもたちの主体的な学びを深める内容であったかどうかについて考察する。</li> </ul>
7	<p><b>【指導案の設計と教材研究】</b></p> <p>学習指導案や部分実習指導案の作成方法について学ぶ。指導案の書き方の基本を理解し、授業の根幹をなす学習目標を明確にすることについて、具体例とともに理解する。また、深い学びを導くために必要な教科書や教材の役割について考え、適切に活用するための方法について理解を深める。(目標(1)-3、(2)-1、(2)-2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットで小学校の学習指導案を検索し、指導案の例やフォーマットを確認する。その上で、自分が模擬授業を行うとしたらどのような授業を実施したいのかを書き出す。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が実施したいと思う授業の学習指導案の案を考える。</li> </ul>
8	<p><b>【教育の情報化について】</b></p> <p>「教育の情報化」の全体像を捉えるとともに、教育の情報化が推進されている背景や、学習指導要領における教育の情報化の位置付けを理解する。</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」にアクセスし、「各教科等の指導におけるICTの活用について【概要】」をダウンロードして読む。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html</a></li> </ul>

		(事後) ・自分の得意教科に関するICT活用に関する資料を上記URLからダウンロードし、ICTを効果的に活用できる場면을箇条書きで挙げる。
9	<p><b>【教師によるICT活用】</b></p> <p>ICTを活用した効果的な教室環境づくりや教材収集・作成に関して学ぶとともに、教育方法の理論を踏まえながらICTを効果的に活用した計画やわかる授業を実践する方策について理解する。(目標(2)-1、(2)-2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教員のICT活用指導力チェックリスト」の項目を確認した上で、「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」の最新版をダウンロードし宮崎県の現状を書き出す。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを用いて小学校でのICTを活用した授業の実践例を調べる。</li> </ul>
10	<p><b>【子どものICT活用と教師の支援】</b></p> <p>子どもによるICT活用が求められる意義や期待される効果について教師によるICT活用と対比して学ぶとともに、具体的な学習場面と日常的な活用によりICTの基本的な操作を習得させる意義や方法を理解する。(目標(3)-1)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配付されたロイロノートのアカウントを確認し、ログインできるかどうかを確認する。操作方法についてインターネットで調べる。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちにICTを利用させる上で必要な決まりやルールの案を考え、箇条書きにまとめてみる。</li> </ul>
11	<p><b>【情報活用能力の育成】</b></p> <p>小学校の情報教育について、情報活用能力の定義とその育成の動向について学ぶとともに、情報活用能力を育成する教材開発に関して、各教科・領域の中で指導する教科横断型教材と教科をもとにする指導する教科型教材について理解する。(目標(3)-1)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用能力の育成に関する文部科学省の資料(以下)をみて、情報活用能力調査(小中学校)の結果について調査概要を確認する。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369615.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369615.htm</a></li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語における情報活用能力を活かす授業の実践例をインターネットで調べ、事例を書き出す。</li> </ul>
12	<p><b>【情報モラル教育】</b></p> <p>情報モラル教育や、デジタル・シティズンシップ教育の必要性について学び、メディアや情報社会に関する科学的な理解を踏まえた実践例や授業づくりの考え方について理解する。(目標(3)-2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育についての以下の資料を読み、その必要性について確認する。 <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryu/attach/1249674.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryu/attach/1249674.htm</a></li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで情報モラル教育の小学校での実践例を調査する。その上で授業テーマの具体例をまとめる。</li> </ul>
13	<p><b>【プログラミング教育】</b></p> <p>小学校におけるプログラミング教育の位置づけや、「プログラミング的思考」とは何かについて、目指すものについて小学校学習指導要領や「小学校プログラミング教育の手引」から学び、プログラミングを学ばせる手順や具体的な授業の方法について理解する。(目標(2)-1)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以下のページから、小学校プログラミング教育の手引をダウンロードし、概要を読み、ポイントを整理してまとめる。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm</a></li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校プログラミング教育で利用するアプリケーションや言語などの学習環境を調べてまとめる。</li> </ul>

	14	<p><b>【模擬授業の構想と準備】</b></p> <p>教師・児童のそれぞれがICTを活用する授業を構想し、プランを作成して、教師の指示・発問を考えたり、児童の反応を想定したりして、模擬授業を行う準備をする。(目標 (2) -1、(2) -2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業として行う1回の授業で、学習者に何を学ばせたいのかを予め書き出しておく。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した指導案、板書計画、ワークシートなどを1セットのものとして振り返り、実現可能性の観点から改善する。</li> </ul>
	15	<p><b>【模擬授業の実施と検討】</b></p> <p>グループ内でICTを活用した模擬授業を行い、それぞれの良かったところや改善点などを出し合い、全体で共有する。(目標 (2) -1、(2) -2)</p>	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に作成した指導案、板書計画、ワークシートなどを1セットのものとして準備する。</li> </ul> <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童役、参観者役の受講者から出てきた意見を整理して改善すると良い点を洗い出し、指導案を改善する。</li> </ul>
評価	<p>定期試験 40%</p> <p>対面授業の課題 20%</p> <p>模擬授業及びレポート 40%</p>		
テキスト	適宜、講義で配付する。		
参考文献	<p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術 堀田龍也・佐藤和紀編著 三省堂</li> <li>・教職課程研究会 山下省蔵編著 教職必修 教育の方法と技術 実教出版</li> <li>・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化社 ・柴田義松編著 教育の方法と技術 学文社</li> <li>・師岡章編著 幼児教育の指導法 放送大学教育振興会</li> </ul> <p>参考資料等：文部科学省 資料：学習評価・指導要録 関係報告・通知</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroomおよびロイロノート・スクールを活用して授業を行う。このため、授業では毎回スマートフォン端末やノートパソコンを持参することが望ましい。</li> <li>・担当教員（渡邊裕）は、中学校・高等学校における教員（理科・情報）としての実務経験を活かし、コミュニケーションのための教育技術と教育機器の講義を担当する。</li> </ul>		